

経皮的内視鏡下胃内手術

メディカルトピア草加病院外科, AMG 内視鏡外科アカデミー
金平永二 1,2)、塩澤邦久 1)、亀井 文 1)、谷田 孝 1)

当科では食道胃接合部に発生した腫瘍性病変(主にGIST)の局所切除法のひとつとして、経皮的内視鏡下胃内手術を行っている。まず術中内視鏡併用により腹壁と胃前壁を貫通するポート(STEP®)を3本胃内に挿入する。このうち1本から硬性内視鏡を、残りの2本から把持鉗子やエネルギーデバイスを挿入し、腫瘍を核出する。摘出した腫瘍は回収バッグに収納し、術中内視鏡にて経口的に回収する。胃壁の欠損部は、3-0PDSにより結節縫合で閉鎖する。胃内操作終了後、胃前壁のポート刺入創3か所を縫合閉鎖する。最近は、大きさ3センチ以下の噴門部腫瘍に対して、single incision laparoscopic surgery を胃内手術に導入した。臍部の皮膚切開を通じて胃瘻を作成し、x-Gate®(筆者らが開発したマルチチャンネルポート)を装着する。ここから硬性鏡と鉗子やエネルギーデバイスを胃内に挿入する。ほかに左側腹部から経皮的に穿刺で胃内に2mmの鉗子(BJ ニードル®)を挿入する。これらを用いて腫瘍の核出を行うものである。